

早津氏(岡山大学名誉教授)に学術賞

高松宮妃
癌研究基金
診断、治療へ貢献

がん抑制遺伝子の働きを阻害する、メチル化シトシンによりも化学反応の速度が極端に遅くなることを発見し、岡山大と、メチル化していないシトシンよりも化学反応の速度が極端に遅くなることを発見し、貢献したとして、岡山大

92年にオーストラリア

名誉教授の早津彦哉さん(80)＝岡山市北区津島本町＝が、2014年度の「高松宮妃癌研究基金学術賞」に選ばれた。

高松宮妃癌研究基金は68年に設立。がんの分野で優れた業績を挙げた研究者らに毎年学術賞を贈っている。今回は早津さんを含め2人の受賞が決まった。

授賞式は2月20日に東京で行われ、高松宮妃癌研究基金総裁の常陸宮さまが賞状などを手渡す予定。早津さんは「化学反応が見つかった当時は何の役に立つか分かったからなかった。受賞は他の研究者が日々努力してくれた

シトシンはDNAを構成する塩基の一つ。早津さんは東京大の助教授だった1970年、メチル化シトシン

アの研究グループが、早津さんの発見を利用してメチル化シトシンを判別する「重亜硫酸修飾法」を確立。今では世界中の医療現場に

おかげ」と話している。

早津彦哉岡山大名誉教授



早津彦哉岡山大名誉教授

は世界中の医療現場に

おかげ」と話している。

(岸研一)